

編集後記

年1回の編集後記、1年を振り返る。国内では小泉内閣が安倍内閣に代わった。大臣の失言問題（最近では柳沢厚労大臣）は政策議論をするのではなく、言葉じりを捉えた足の引っ張り合い。新聞、TVがそれをエスカレートさせている。他に、いじめ問題、バラバラ殺人、親が子を殺すなど嫌な気分させる報道の何と多いことか。今の世相、みな刺激的なことを求め、少しぐらいのことでは驚かず、わずかな幸福にも満足できない。実は危険な兆候。一方で、個人の印象はそれぞれ違うだろうが、昨年夏、甲子園で駒大苦小牧が3連覇を目指し延長再試合をしたこと。札幌に移転して3年目のプロ野球日本ハムが優勝したのには感動した。外国のニュースも重要なのにTVは余り伝えない。日本人は最近、イラク問題ほかでアメリカを嫌いになり批判しているが、普段の生活では多分に影響を受け納得している（させられている？）。医療制度改革、裁判員制度導入もアメリカの影響大か。政治不信の中、2007年問題＝団塊の世代の定年が始まるが、周囲に振り回されずにじっくり考えていこうと思う。

会誌編集は毎度、12月末に原稿をどっと受け取り、慌しく校正、編集の作業に至る。創刊の頃から編集でこだわっているのは、研究会当日の質疑応答、日本骨折治療学会印象記、ほっとぶらざの掲載など。今回は113回の新藤正輝先生、114回の田中寿一先生の教育研修の両先生とも、速やかに原稿をお送り下さり助かりました。それぞれの会の様子は会長のまとめの通りです。雑用ですがこの仕事をして、いろいろな人と知り合いになり学ぶことが数多くあります。後輩にもぜひ、同じ体験をさせてあげたいと思います。今回も発刊に至るまでに多くの方々にお世話になりました。ありがとうございました。
2007. 2. 5（佐久間隆記）

編集係：八木知徳
佐藤栄修
佐久間隆
土田芳彦

北海道整形外科外傷研究会会誌 第23巻

平成19年3月31日

編集・発行 北海道整形外科外傷研究会

代表 荒川 浩

事務局 札幌市中央区南9条西10丁目

札幌中央病院 整形外科内

(昭和60年3月2日 創刊)

印刷 富士プリント株式会社